

令和4年度(2022)
全国及び市学力・学習状況調査に係る結果について

令和4年(2022)8月
出雲市教育委員会

1 全国学力・学習状況調査の概要

(1) 実施日

令和4年4月19日（火）

(2) 対象学年及び教科

- ・小学校第6学年〔国語・算数・理科・学習状況調査〕
- ・中学校第3学年〔国語・数学・理科・学習状況調査〕

(3) 平均正答率

① 小学校第6学年

教科	国語		算数		理科	
	R3	R4	R3	R4	H30	R4
出雲市	65	65	69	61	61	61
島根県	63	64	67	61	58	62
全国	64.7	65.6	70.2	63.2	60.3	63.3
市と県の差	+2	+1	+2	±0	+3	-1
市と国の差	+0.3	-0.6	-1.2	-2.2	+0.7	-2.3

② 中学校第3学年

教科	国語		数学		理科	
	R3	R4	R3	R4	H30	R4
出雲市	64	70	56	50	67	49
島根県	62	69	53	49	66	48
全国	64.6	69.0	57.2	51.4	66.1	49.3
市と県の差	+2	+1	+3	+1	+1	+1
市と国の差	-0.6	+1	-1.2	-1.4	+0.9	-0.3

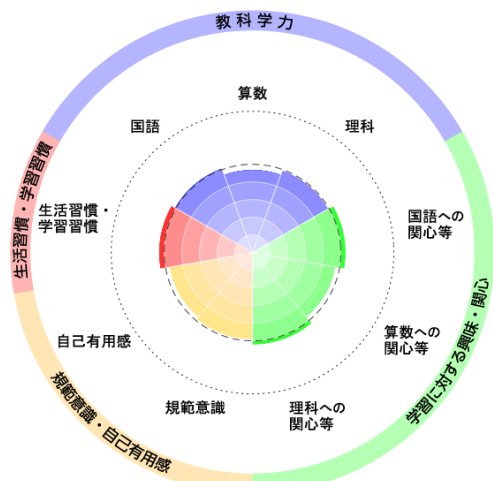
・小学校第6学年は、国語、算数、理科ともに、島根県平均正答率と「同程度」であった。国語は全国平均正答率と「同程度」であり、算数、理科は「やや下回った」。

・中学校第3学年は、国語、数学、理科ともに、島根県平均正答率及び全国平均正答率と「同程度」であった。

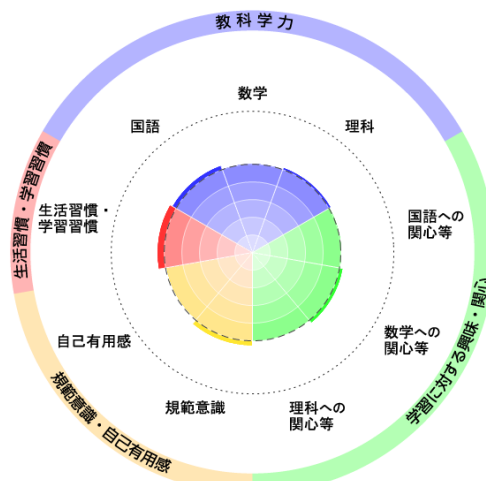
(4) 結果概要（レーダーチャート）

※ 点線(---)が全国の平均を表している。点線より内側にある項目は、全国平均を下回っていることを表す。点線より外側にある項目は、全国平均を上回っていることを表す。

小学校第6学年



中学校第3学年



2 出雲市学力・学習状況調査の概要

(1) 実施日

令和4年4月19日（火）

(2) 対象学年及び教科

- ・小学校第4学年〔国語、算数、学習状況調査〕
- ・小学校第5学年〔国語、算数、学習状況調査〕
- ・中学校第1学年〔国語、数学、学習状況調査〕
- ・中学校第2学年〔国語、数学、英語、学習状況調査〕

(3) 平均正答率

教科		国語		算数／数学		英語	
		R3	R4	R3	R4	R3	R4
小 4	出雲市	68.3	66.6	72.2	74.5		
	全 国	69.3	68.0	70.9	73.1		
	市と国の差	-1.0	-1.4	+1.3	+1.4		
小 5	出雲市	67.7	67.4	64.9	61.8		
	全 国	67.8	68.0	65.3	60.4		
	市と国の差	-0.1	-0.6	-0.4	+1.4		
中 1	出雲市	72.2	59.8	70.9	71.9		
	全 国	71.4	57.3	68.2	69.2		
	市と国の差	+0.8	+2.5	+2.7	+2.7		
中 2	出雲市	70.6	67.7	59.8	59.1	55.5	54.8
	全 国	68.5	66.7	58.6	56.6	54.5	55.9
	市と国の差	+2.1	+1.0	+1.2	+2.5	+1.0	-1.1

- ・中学校第1学年の国語、数学、中学校第2学年の数学は、全国平均正答率を「やや上回った」。
- ・その他については、全国平均正答率と「同程度」であった。

3 全国学力調査の結果について

【小学校第6学年 国語】

- ・高正答率（8割以上の正答：14問中12問以上の正答）の児童の割合が25.9%であり全国（28.4%）より低い。中間層（4割から7割の正答：6問から11問の正答）の児童の割合は59.4%であり全国（56.6%）より高い。
- ・目的に応じた適切な言葉を記述する問題では、正答率が83.5%、読みやすい文を書く問題では、正答率が83.6%、全国を5.7ポイント上回った。また、漢字では、熟語を正しく書くことができおり、言葉に関する基礎的な知識は定着している。
- ・「話すこと・聞くこと」では、質問の意図を確認する問題の正答率が82.5%であり、質問をしたり意見のやりとりを通して、相手の伝えたい内容を捉えることはできている。一方で、他者の意見や話し合いの中の言葉を参考に、自分の考えをまとめる問題の正答率が45.9%であり、課題がある。
- ・「書くこと」では、文章の特徴を分析する問題の無回答率が15.4%であり、自分の考えを明確にして、相手に分かりやすく伝えるための文章を書くことに課題がある。
- ・全体的に、長い文章の全体像や要点を読み取り、筋道を立てて自分の考えを記述することに課題がある。

【小学校第6学年 算数】

- ・高正答率（8割以上の正答：16問中13問以上の正答）の児童の割合は24.3%であり全国（30.2%）より低い。中位層（4割から7割の正答：7問から12問の正答）の児童の割合は55.3%であり、全国（52.0%）よりも高い。
- ・領域別では、全国平均正答率を「数と計算」で3.2ポイント、「図形」で3.5ポイント下回り、「変化と関係」と「データの活用」は、ほぼ同程度であった。
- ・「かけられる数の位に0がある場合のかけ算（ 1050×4 ）」の正答率が91.5%、長方形の性質を使った問題の正答率が81.2%、百分率（%）で表された割合を分数で表す問題の正答率が73.6%あり、基礎的な知識や計算の力は定着している。
- ・「数と計算」では、式が割り算となる理由を説明する問題の正答率が全国を4.0ポイント下回った。また、切り捨てや四捨五入を使って答えの見当をつける問題の正答率が30.5%であり、示された場面の意味を理解し、目的に応じて数の処理の仕方を考えることに課題がある。
- ・「図形」では、作図の手順を記述する問題の正答率が41.0%であり、全国を7.8ポイント下回った。筋道を立てて説明することに課題がある。
- ・「変化と関係」では、百分率で表された割合と基になる量から、比べる量を導き出す問題の正答率が全国を4.7ポイント下回った。
- ・全体的に、日常の具体的な場面に既習事項を対応させ、見通しをもちながら考えること、式や言葉を用いて筋道をたてて説明することに課題がある。

【小学校第6学年 理科】

- ・高正答率（8割以上の正答：17問中14問以上の正答）の児童の割合は24.9%であり全国（28.6%）より低い。中位層（4割から7割の正答：7問以上13問）の児童の割合は57.3%であり、全国（54.9%）より高い。
- ・「生命の領域」では、昆虫の体に関する問題の正答率が71.7%であり、基礎的な知識が定着している。また、育ち方と食べ物の二つの視点から昆虫を分類する問題では正答率が75.1%であり、提示された情報を複数の視点から分析することができている。
- ・「粒子の領域」では、全国平均正答率を3.3ポイント下回った。なかでも実験器具の「メスシリンダー」の名称の正答率が全国を4.1ポイント下回り、無解答率も14.2%であった。観察・実験に関する知識が定着しているとは言い難い。また、条件を変えた場合の実験を考える問題では、全国を4.1ポイント下回っている。自然の事物・現象から得た情報を分析して解釈し、自分の考えをもって記述することに課題がある。
- ・「地球の領域」では、太陽の光と水の温度との関係を実験結果から説明する問題の正答率が全国を2.1ポイント下回り、無回答が12.8%であった。実験で得た結果を分析し、考察することに課題がある。
- ・全体的に、学習内容を身近な現象にあてはめて考えること、問題を解決するために、提示された情報や実験結果を分析し解釈することや、根拠をもとに自分なりの考えを記述することに課題がある。

【中学校第3学年 国語】

- ・高正答率（8割以上の正答：14問中12問以上の正答）の生徒の割合が31.7%であり全国（31.1%）と同程度であった。また、中位層（4割から7割の正答：6問から11問）の生徒の割合は58.5%であり、全国（58.6%）と同程度であった。
- ・漢字の正答率が80%を超えており、文脈に即して正しい漢字を使うことができている。また、行書（楷書の書き方を少しくずしたもの）の書き方に関する問題の正答率は89.8%であり、言葉に関する基礎的な知識は定着している。
- ・「話すこと・聞くこと」では、スピーチの表現に関する問題の正答率は77.1%であり、全国を2.4ポイント上回った。聞き手の興味を引くための表現の工夫については理解できている。一方で、相手に自分の考えを分かりやすく伝えるような話し方を記述する問題では、全国平均正答率を4.8ポイント上回っているが、無解答率が15.4%であり課題である。
- ・「書くこと」では、ホームページから必要な情報を引用する問題の正答率が48.5%、無解答率が7.9ポイントであった。根拠を明確にして、自分の考えを伝える文章を書くことに課題がある。
- ・全体的に、自分の考えが伝わるように表現すること、必要な情報を選択して活用すること、根拠を明らかにして書くことが課題である。

【中学校第3学年 数学】

- ・高正答率（8割以上正答：14問中12問以上正答）の生徒の割合は9.2%であり全国（13.0%）より低い。一方で、低正答率（4割未満の正答：0問から5問）の生徒の割合は33.2%であった。
- ・「図形」「データの活用」は全国平均正答率とほぼ同程度、「数と式」「関数」は全国平均正答率をやや下回った。
- ・「数と式」では、連立方程式を解く問題の正答率が74.2%、文字を用いた式を表す問題の正答率が71.2%であり、基礎的な知識が定着している。
- ・ある条件の下での足し算の答えを説明する問題では、正答率が43.8%であり、無解答率が21.5%であった。また、予想したことが成り立つことを説明する問題では、正答率が36.2%、無回答率が27.3%であった。このことから、ある事柄が成り立つ理由を数学的な表現（数量の関係を文字や式で表すこと）を用いて説明すること、結論が成り立つための前提から新たにきまりを見いだし説明することに課題がある。
- ・「データの活用」では、データの傾向を読み取る問題の平均正答率が全国を3.2ポイント上回っており、複数のデータを比較し、データの分布の特徴を読み取ることはできている。
- ・「図形」では、角の大きさが等しいことを証明する問題の正答率が11.0%、無解答率が38.6%であり、筋道を立てて考え、根拠をもとに説明することに課題がある。
- ・全体的に、既習事項を活用し、事柄が成り立つ理由を論理的に説明することに課題がある。

【中学校第3学年 理科】

- ・高正答率（8割以上の正答：21問中17問以上の正答）の生徒の割合が5.8%であり全国（7.4%）より低い。中位層（4割から7割の正答：9問から16問の正答）の生徒の割合は59.2%であり、全国（57.4%）より高い。
- ・「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の領域別の平均正答率は、全国と同程度である。
- ・「粒子」については、水素の燃焼の化学反応式の正答率が82.1%であり、化学変化に関する基礎的な知識は定着している。
- ・「エネルギー」については、おもりに働く重力とつりあう力に関する問題の正答率が10.8%であり、全国を4.5ポイント下回った。また、磁石に関する実験の問題では、無回答率が29.4%であった。このことから、既習事項を活用して、物理法則を説明すること、考察の妥当性を証明するために実験方法を検討することに課題がある。
- ・「生命」については、アリに関する実験を考察する問題の無回答率が12.0%、予想とは異なる実験結果の意味を考える問題では、無回答率が15.8%であった。実験結果を分析して考察をすること、観察・実験の方法について検討し課題解決までの見通しをもつことに課題がある。
- ・全体的に、見通しをもって観察や実験などの探究活動を計画すること、観察、実験の結果や他者の考えを基に導き出した考察について、根拠を明確にして表現することにも課題がある。

4 学習状況調査の結果について

(1) 児童生徒の質問紙調査の経年変化と全国平均との差 (全国調査から抜粋)

【家庭学習等に関すること ①～⑩】

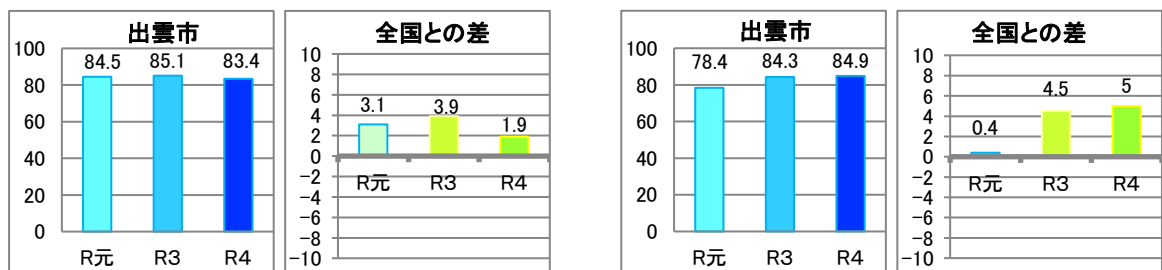
- ・全国と比較しても、自分で計画を立てて、家庭学習をする習慣ができています。また、8割以上の児童生徒が、同時刻に就寝している。
- ・平日のテレビゲーム等を2時間以上する児童生徒が4割から5割程度いる。帰宅後の学習時間の確保への影響が懸念される。
- ・中学校では、「自己有用感をもつ」「失敗を恐れなくて挑戦する」「地域や社会をよくするために考える」生徒の割合が全国よりも高い。
- ・地域行事の参加については、新型コロナの影響もあり、減少傾向となっている。

① 毎日、同じくらいの時刻に寝てますか。

「している」「どちらかといえば、している」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

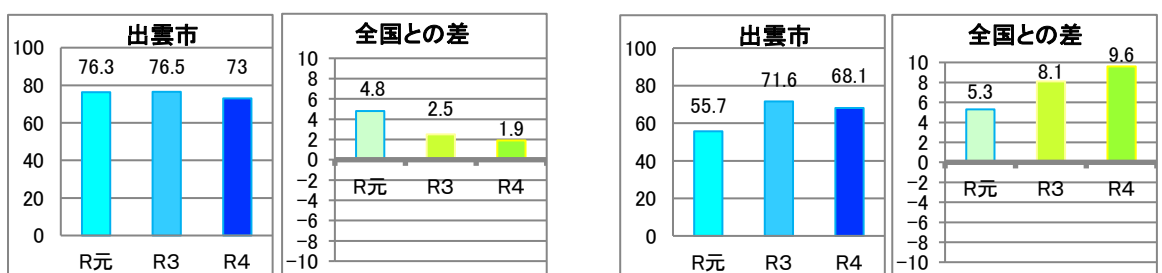


② 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む)

「よくしている」「ときどきしている」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

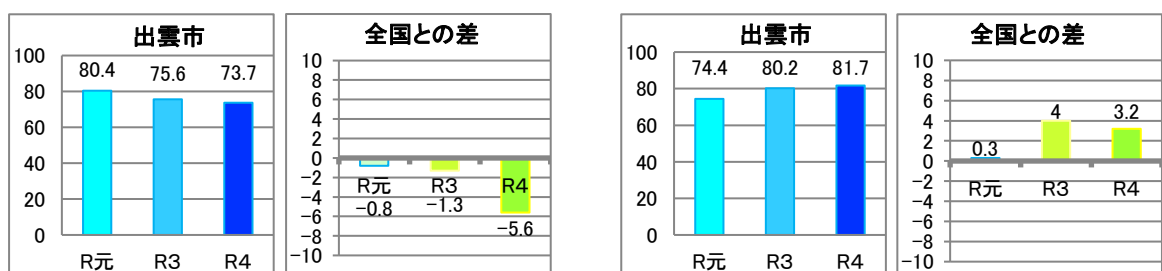


③ 自分には、よいところがあると思いますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

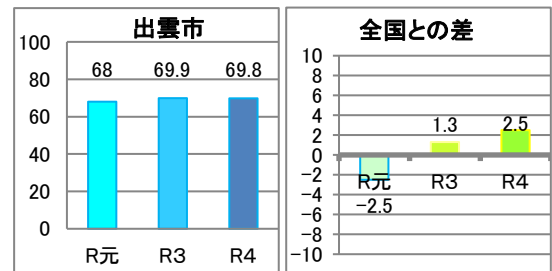
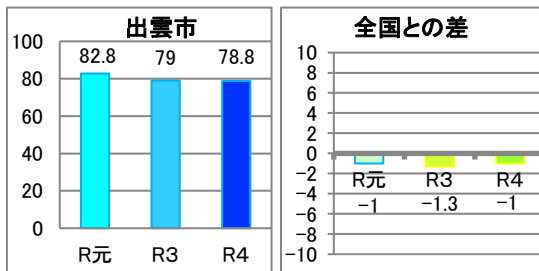


④ 将来の夢や目標を持っていますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

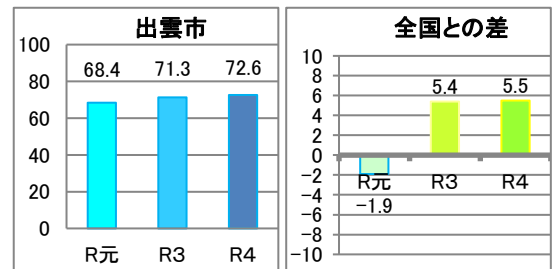
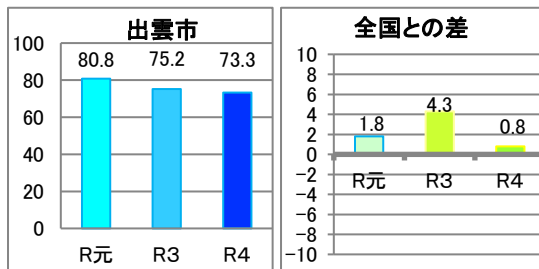


⑤ 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

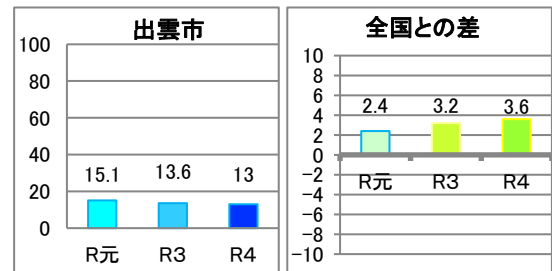
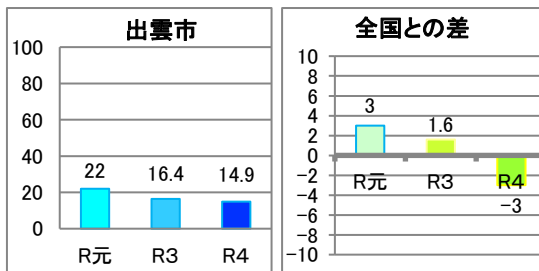


⑥ 新聞を読んでいますか。

「週に1回以上読んでいる」と回答した児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

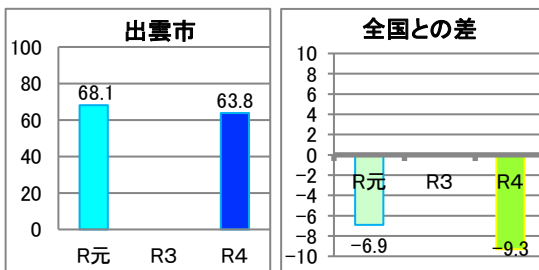


⑦ 読書は好きですか。

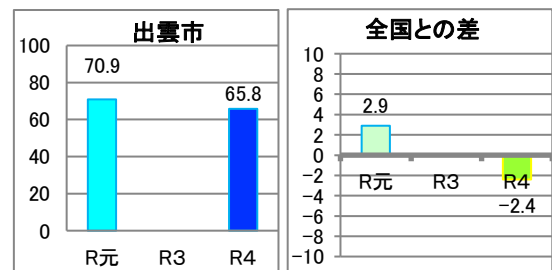
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年



R3 : 質問項目なし



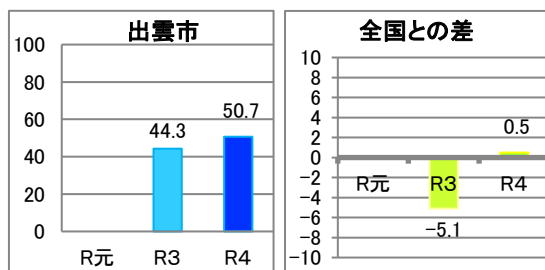
R3 : 質問項目なし

- ⑧ 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。

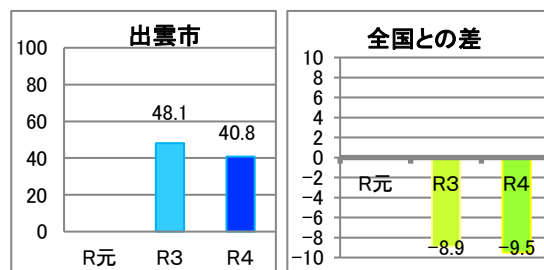
「2時間以上している」と回答した児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年



R元：質問項目なし



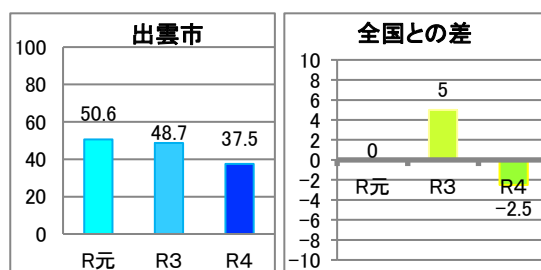
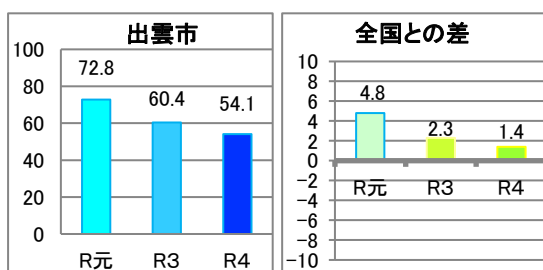
R元：質問項目なし

- ⑨ 今住んでいる地域の行事に参加していますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

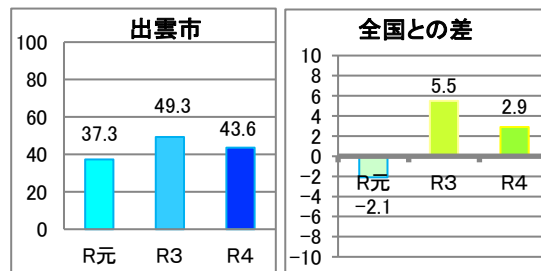
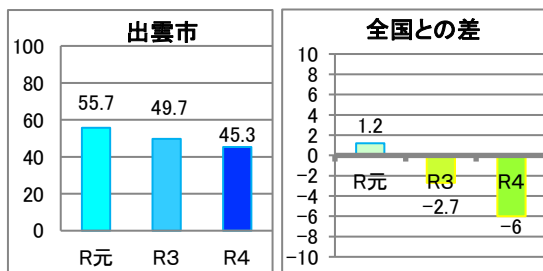


- ⑩ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年



【授業に関すること ⑪～⑬】

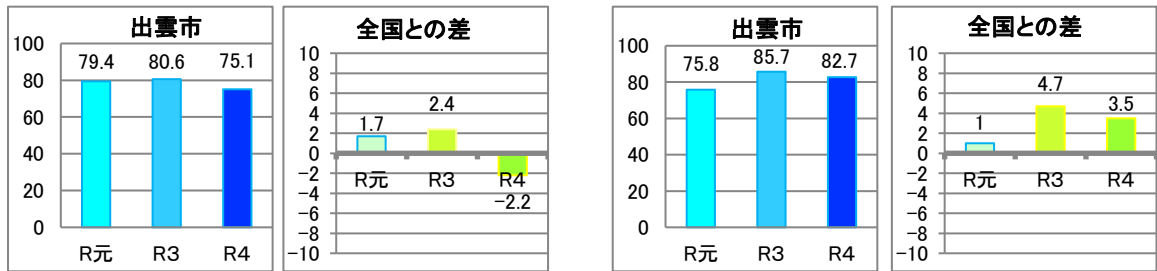
- ・中学校においては、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている。」「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている。」と回答した生徒の割合が全国を大きく上回っており、学習に向かう姿勢が定着している。
- ・国語、算数/数学、理科の「授業内容がよく分かる」と回答した児童生徒の割合は高いが、学力調査の結果に繋がっているとは言えず、引き続き、児童生徒につけたい資質・能力を明確にした授業づくりが必要である。
- ・算数/数学、理科の学習を生活の中で活用できないかと考える児童生徒の割合は、全国と比較して高いが、普段の授業と日常生活の事象などを関連させて考えるような機会を増やす必要がある。

- ⑪ 前の学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

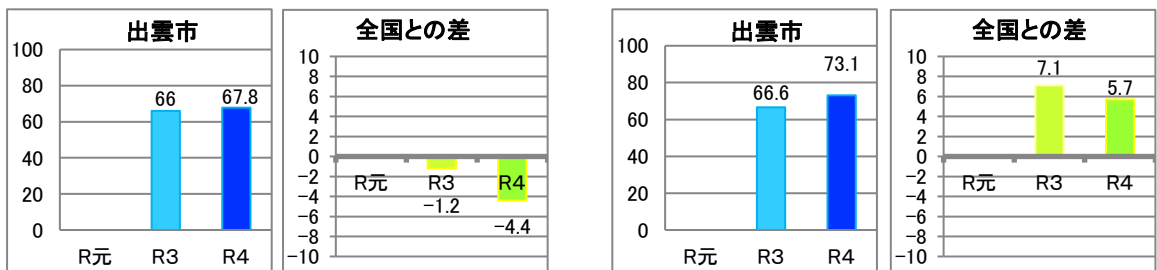


- ⑫ 前の学年までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年



R元：質問項目なし

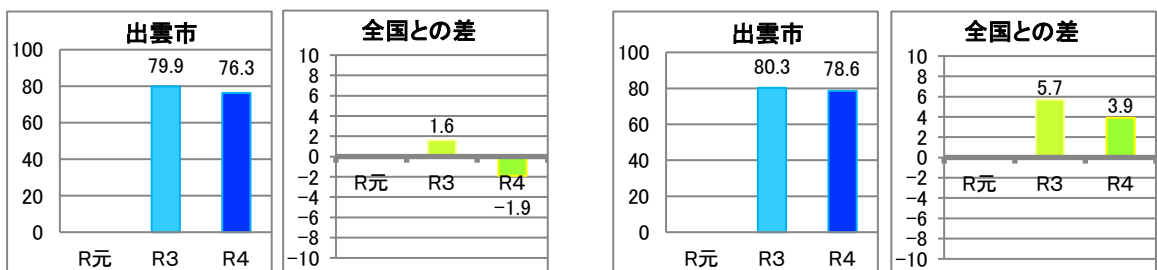
R元：質問項目なし

- ⑬ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年



R元：質問項目なし

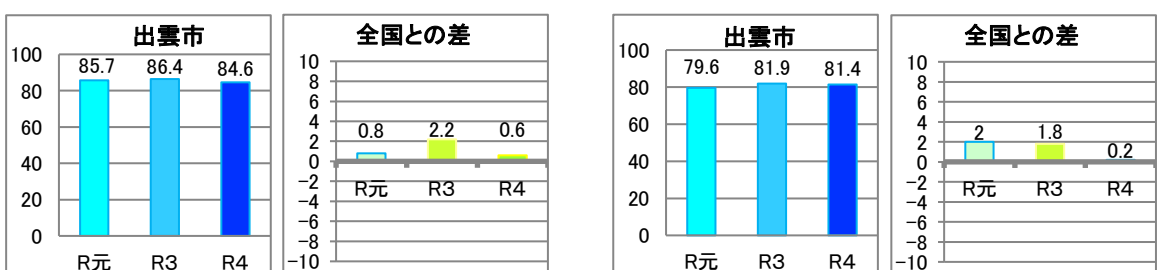
R元：質問項目なし

- ⑭ 国語の授業の内容はよく分かりますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

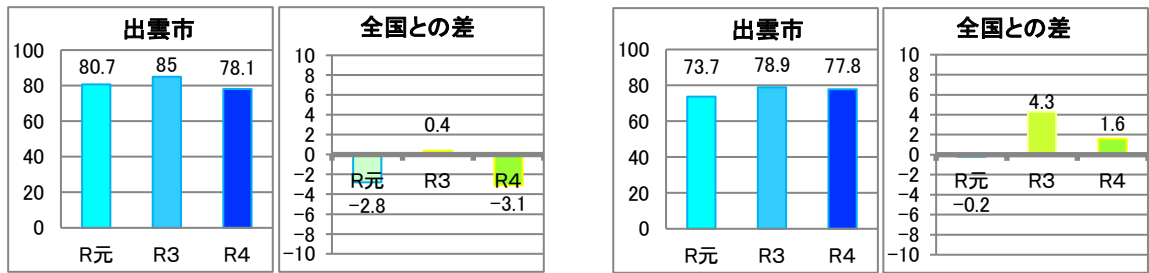


⑮ 算数/数学の授業の内容はよく分かりますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

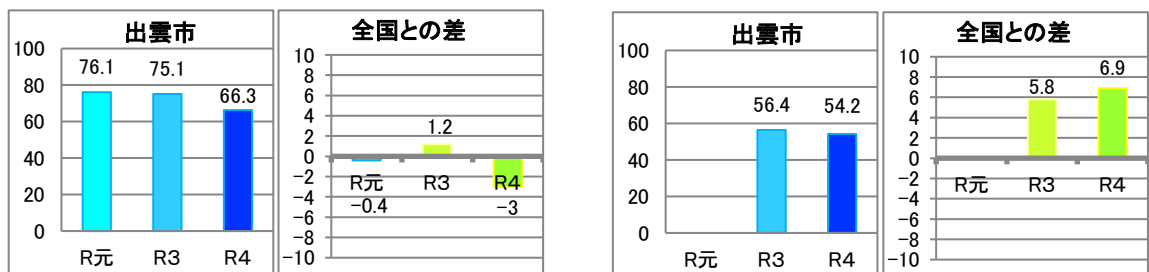


⑯ 算数/数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年



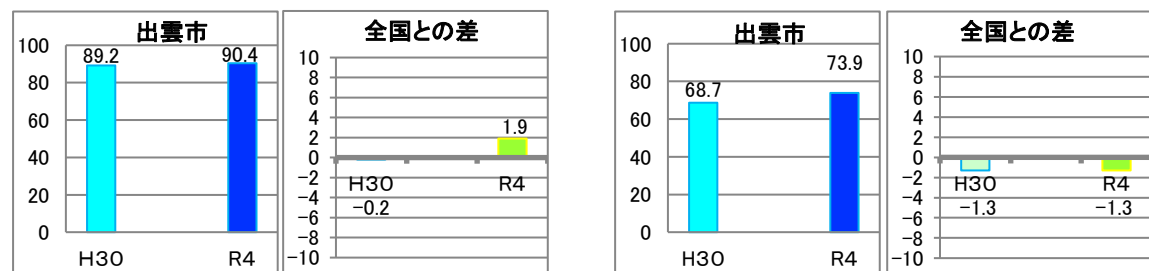
R元：質問項目なし

⑰ 理科の授業の内容はよく分かりますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

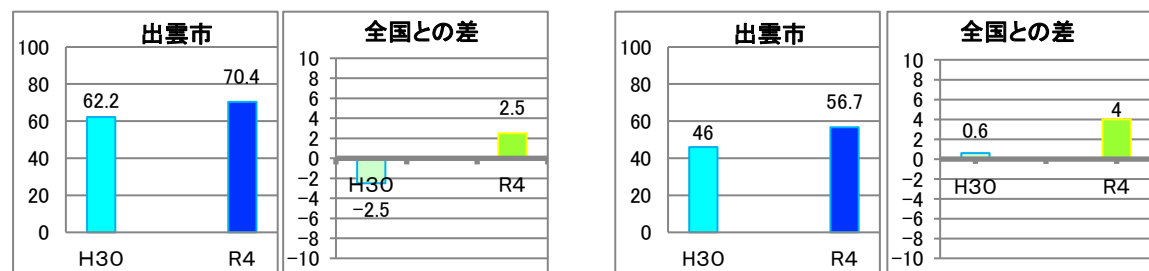


⑱ 理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

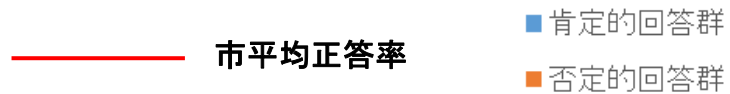
小学校第6学年

中学校第3学年

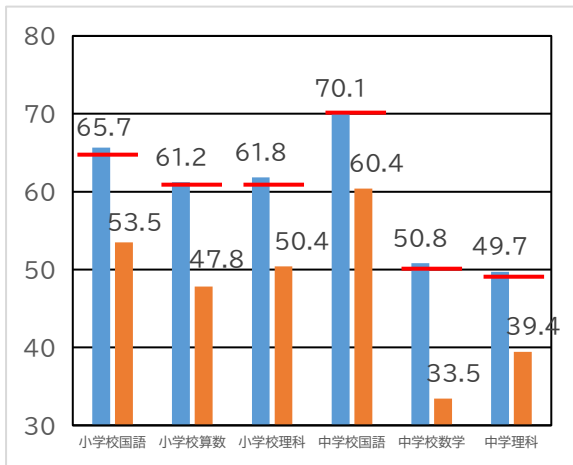


(2) 児童生徒の学習状況と教科の平均正答率 (全国調査から抜粋)

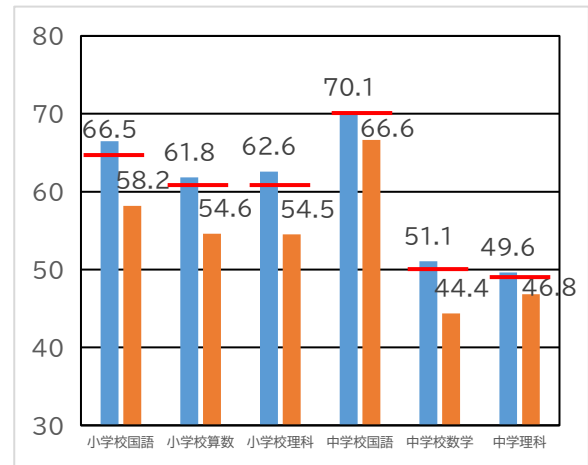
※ 次の①～⑥の質問について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」などと回答した児童生徒を「肯定的回答群」、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒を「否定的回答群」としている。



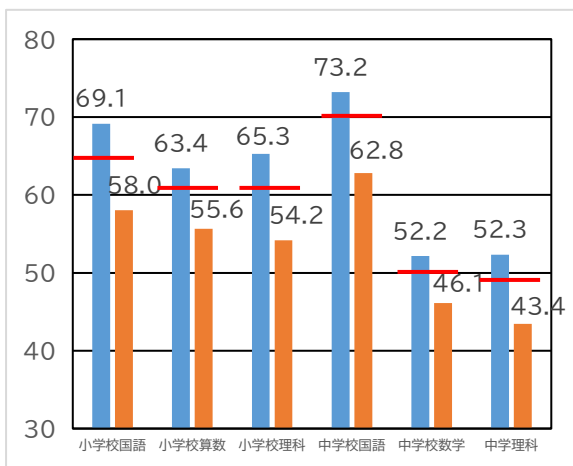
①朝食を毎日食べていますか。



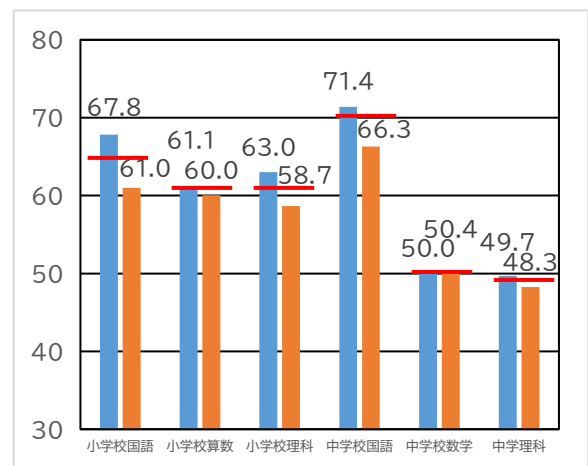
②学校に行くのは楽しいと思いますか。



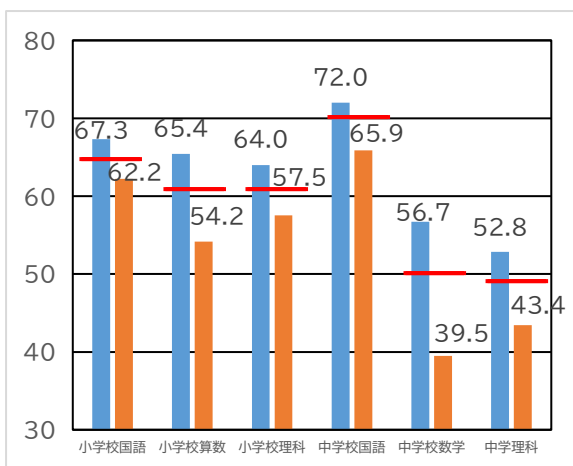
③読書は好きですか。



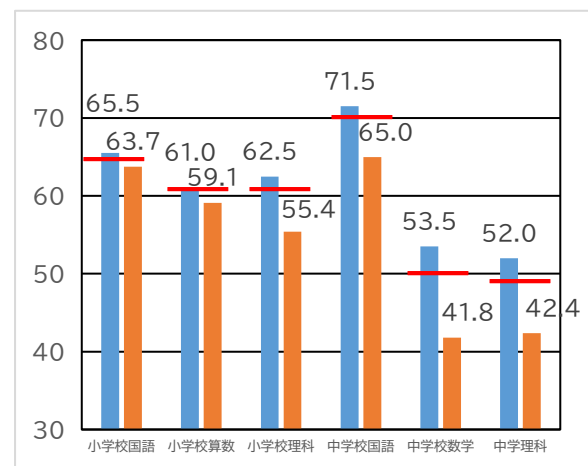
④国語の勉強は好きですか。



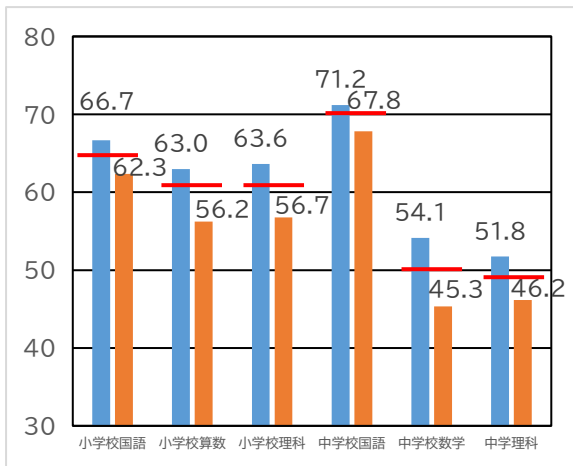
⑤算数・数学の勉強は好きですか。



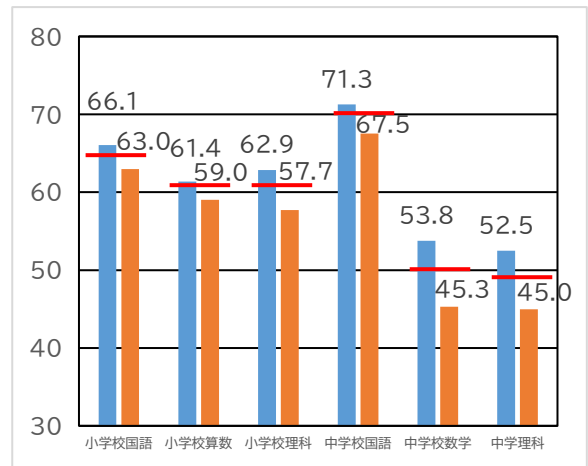
⑥理科の勉強は好きですか。



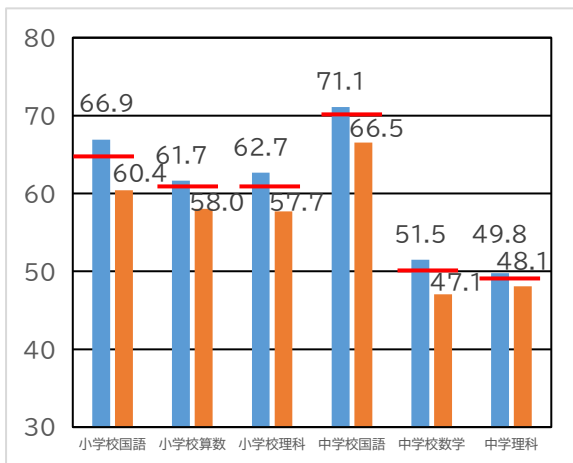
⑦算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。



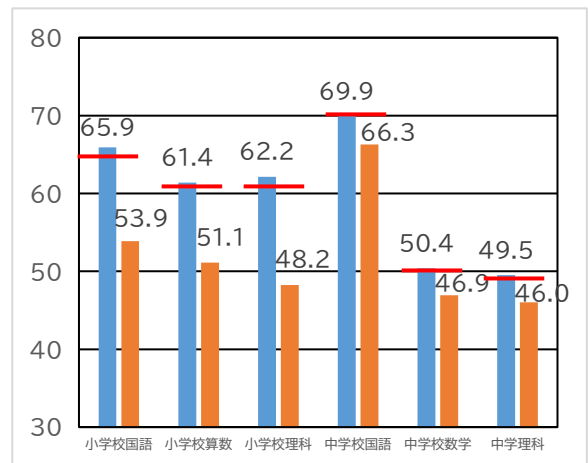
⑧理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。



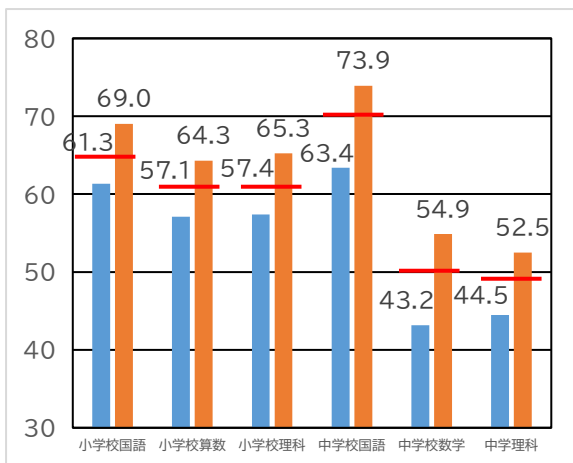
⑨家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む)



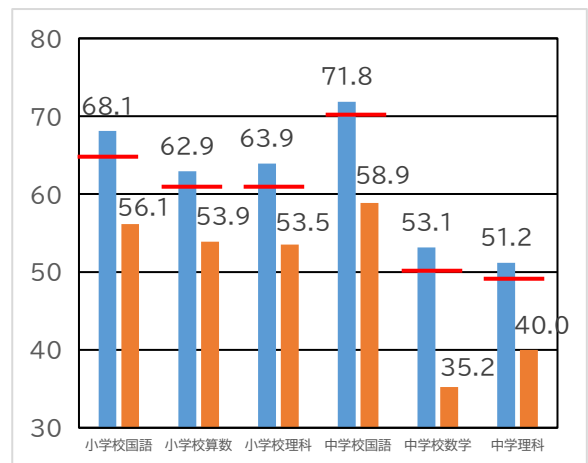
⑩学習の中でPC、タブレットなどのICT機器を使うのは勉強に役に立つと思いますか。



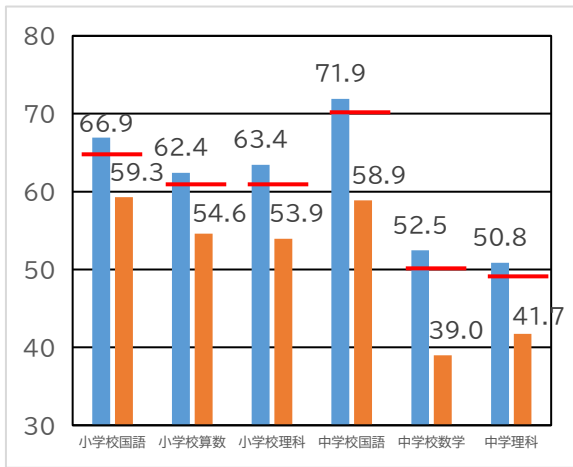
⑪普段(月曜日から金曜日)、1日当たり2時間以上テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか。



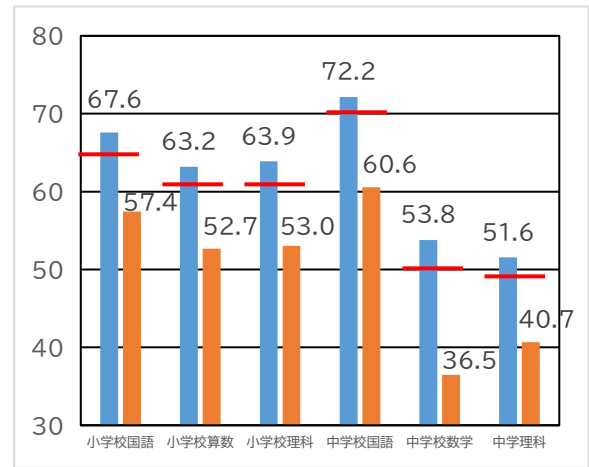
⑫授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



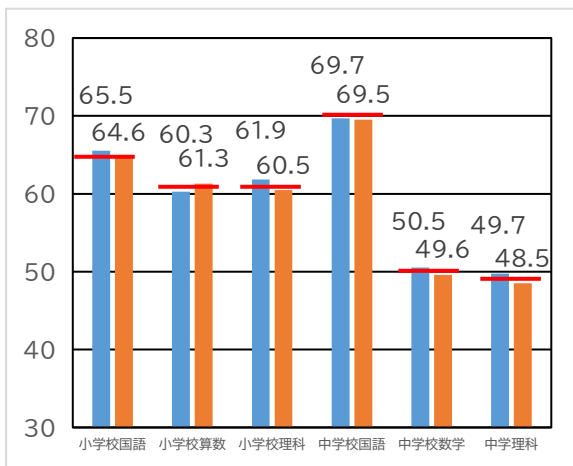
⑬学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。



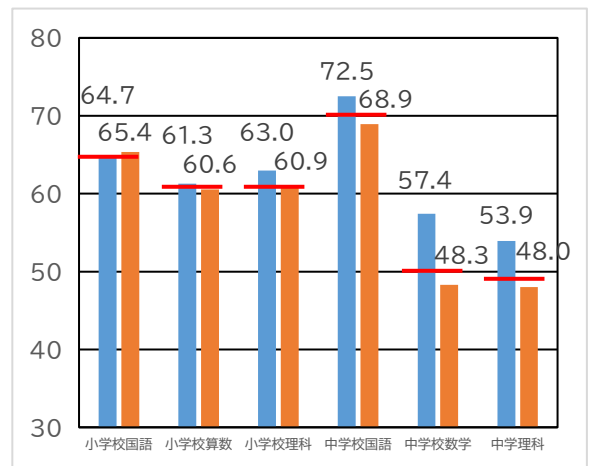
⑭学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか。



⑮自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか。



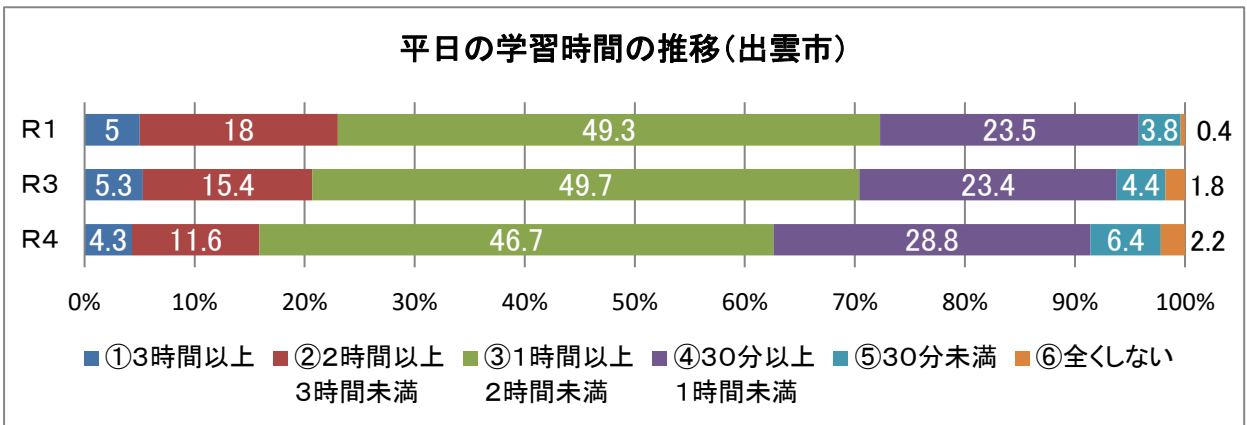
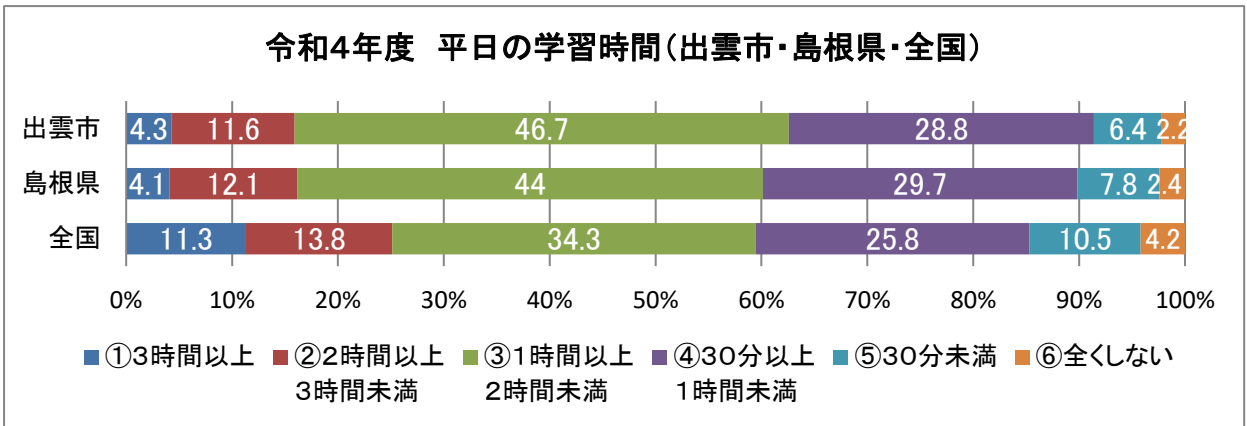
⑯将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか。



(3) 平日の家庭学習時間の状況

① 小学校第6学年

(%)



② 中学校第3学年

(%)

